

2-4. 台峯緑地の基本的な構成

1) 対象地の基本的な構成

対象地である台峯緑地は、鎌倉中央公園の東側、清水谷戸、倉久保・台峯の谷戸及びその東側の斜面緑地から構成される樹林地で、倉久保・台峯の谷戸東側頂部と、清水谷戸西側から台峯の谷戸の鎌倉中央公園との境には尾根道があり、倉久保・台峯の谷戸底部にはかつての農道に連絡する道も見られる。

台峯緑地の植生は一部自然林が見られるが、コナラ・スギ・ヒノキ等の二次林が殆どで、斜面緑地として市街地環境・景観に潤いを与えており、特に東側の樹林は横須賀線の車窓からもよく見え、古都鎌倉の玄関口としての印象づくりに重要な役割を果たしている。

また、清水谷戸と倉久保・台峯の谷戸の内部はともに両側を樹林に囲まれた閉鎖的な自然環境・景観が形成され、谷戸の底部は南及び東西の斜面下の数箇所からの湧水により湿地化し、湿生植物が繁茂し、生物の多様性を有す自然環境が形成されており、動物類の貴重種もこの周辺に多く見られる。



図2-21 台峯緑地の基本的な構成

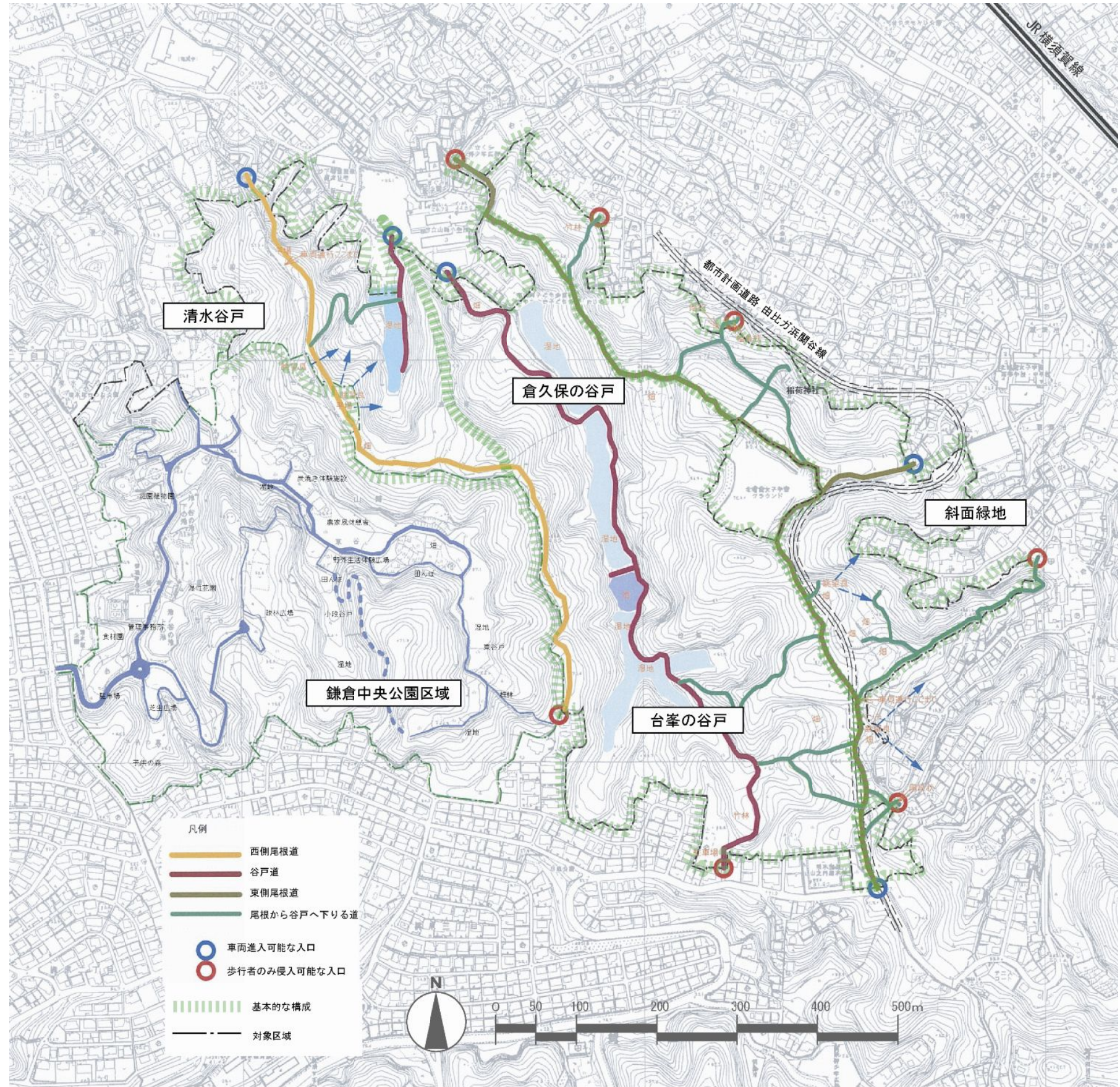


図2-22 対象地の概況

2) 対象地の現況

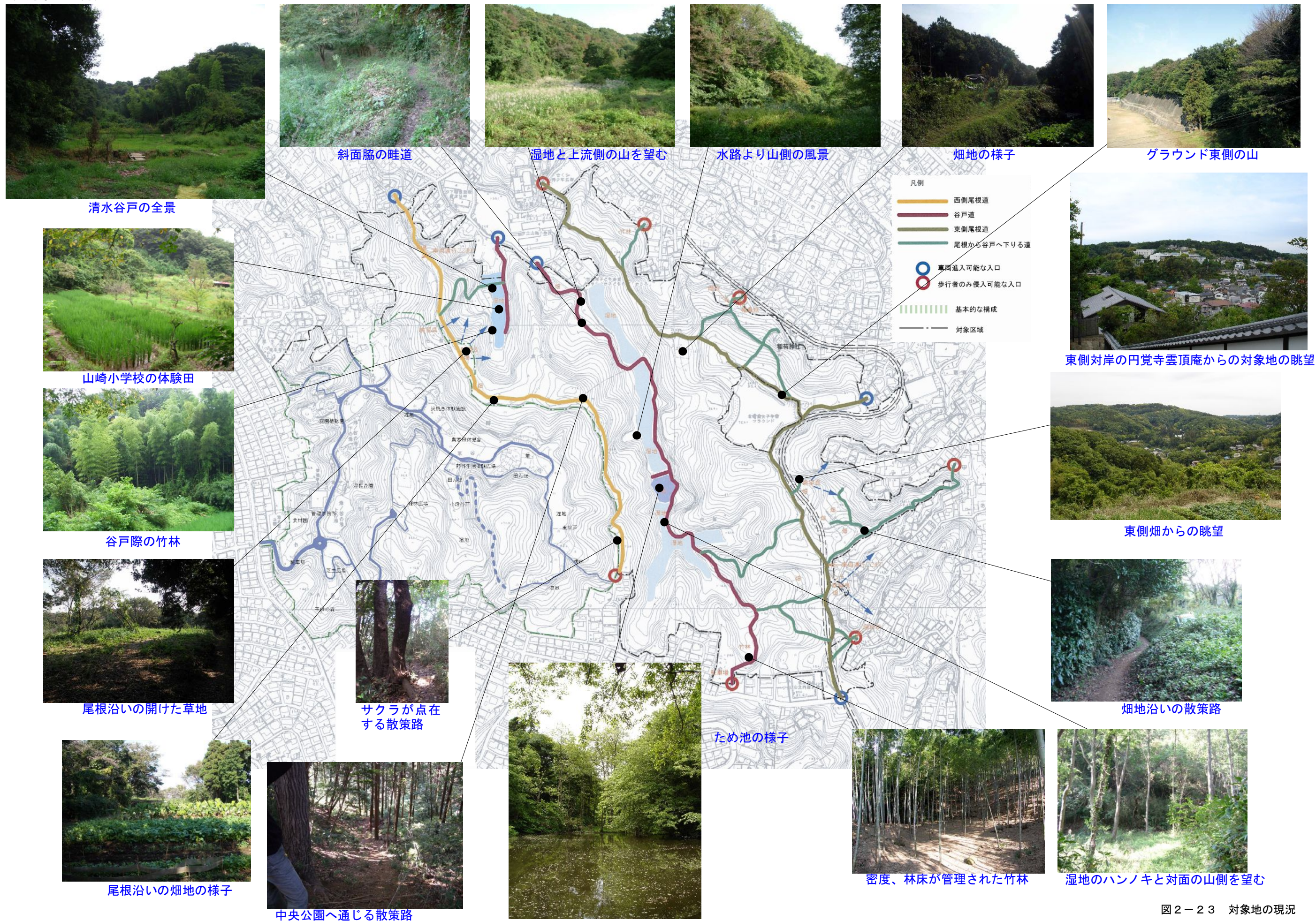


図2-23 対象地の現況